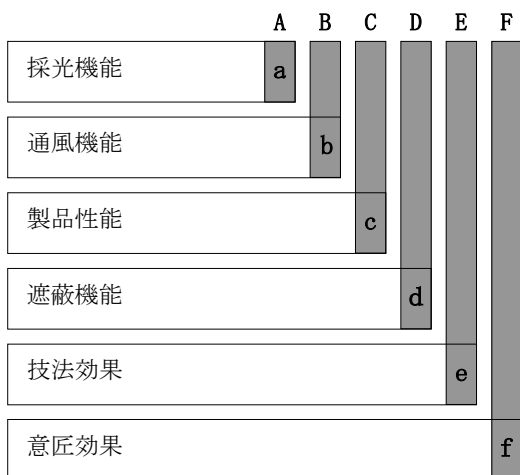
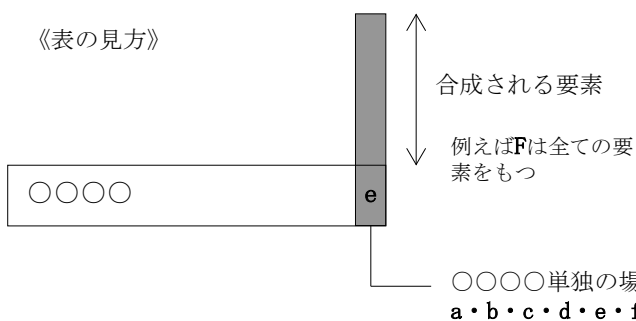


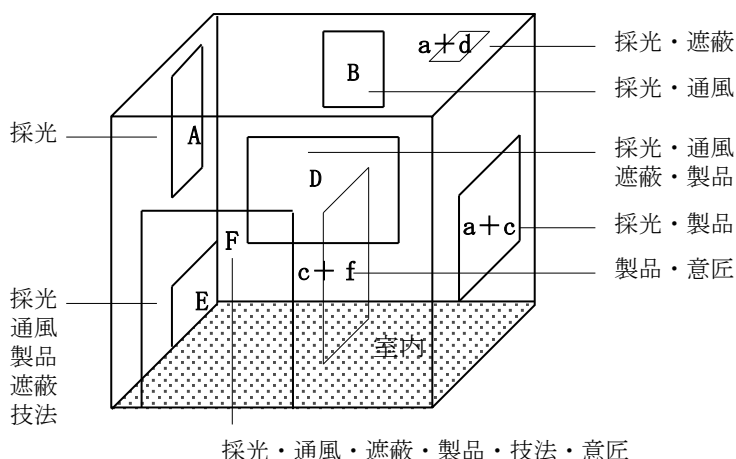
●複合化による機能と効果



《表の見方》



●単独機能から複合化まで様々な組み合わせ例



格子戸・ガラス戸等

引戸開閉方式等

ガラス等の製品性能

障子・内格子等の建具

職人技や再生利用 (cを除き適宜)

採光位置や意匠の特化効果

建具は様々な種類と機能があり、利用場所に応じて組み合わせ方による効果が期待でき、生活の快適さを確保する上で、かなり重要な役割を果たしている。ここでは従来のリフォーム工事における不具合やサッシ単位の交換にとどまらず、エコ効果や居室の個性化まで踏み込んでいる。本基準では、「経済的」という意味は「ローコスト」と同義にとらえてはいない。「費用対効果」は「生産されるものの価値」に対する評価であるという立場をとっている。伝統民家の改修により、その価値が増幅し、担保される効果を指標としている。またこの項は《共生の層》と深い関わりをもつ。

●建具の主な役割

- a 採光機能：室内に外光を導入、確保する
- b 通風機能：換気を含む内外の空気の流動化を促す
- c 遮蔽機能：プライバシーや風雨を守る機能
- d 製品性能：室内の熱環境に影響するガラスの性能
- e 技法効果：再利用を含め素材や意匠に職人技を生かす
- f 意匠効果：採光位置や陰影等で部屋の個性化

●引戸建具の組み合わせ

扉(ドア)式の場合は、建具相互の組み合わせは基本的にならない。視覚や陽光の調整は通常、付加的なインテリア用品によってなされる。引戸の場合は、建具相互の組み合わせ方により様々な変化がある。表はその組み合わせ方である。

1. 建具は基本的に木製建具を想定した
2. アルミサッシ製品の機能性を一部取り込むことも可能
3. インテリア用品とはカーテンやブラインド類を指す
4. 板戸は雨戸機能をもつ

●形式	外格子	板戸	硝子戸	内格子	明障子	(インテリア用品)
単独形式	○	○	○		○	
複数形式 (組み合わせ)	○	○			○	
	○		○			(○)
		○	○	○		
		○	○		○	
		○	○			(○)
			○			(○)
	○	○	○			(○)
			○		○	
	○		○	○		
		○			○	(○)

なおブラインド・薄布等は熱損失に対しては、ほとんど期待できない点から、その対応に注意を要する。